

平成26年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】

平成27年3月13日

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	創立者 古屋賞	カモイ マサカズ 鴨居 正和	法	4	レスリング部	2014世界レスリング選手権(ウズベキスタン) フリースタイル61kg級 日本代表【平成26年度】 天皇杯全日本レスリング選手権大会 フリースタイル61kg級 優勝【平成26年度】 内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会 フリースタイル61kg級 優勝(3連覇)【平成23・24・25年度】 2013ユニバーシアードロシア大会出場 フリースタイル61kg級 出場【平成25年度】 東日本リーグ戦優勝に主将として貢献【平成26年度】
2	創立者 古屋賞	イノウエ ヒロト 井上 大仁	現代 ビジネス	4	陸上競技部	第21回世界ハーフマラソン選手権(コペンハーゲン)日本代表[1' 02"25]【平成26年度】 第45回全日本大学駅伝対校選手権大会(2区1位)【平成25年度】 第46回全日本大学駅伝対校選手権大会(4区3位・シード権獲得に貢献)【平成26年度】 第91回東京箱根間往復駅伝競走大会 9位シード権獲得に主将として貢献【平成26年度】 東京箱根間往復駅伝競走大会 第88回1区・第89回3区・第90回5区・第91回3区 中心選手として貢献 【平成23・24・25・26年度】
3	創立者 古屋賞	タナカ イズキ 田中 泉樹	法	4	ホッケー部	2012年ロンドンオリンピック夏季大会日本代表 ホッケー競技 9位【平成24年度】 女子全日本学生ホッケー選手権大会 3年連続優勝(最優秀選手賞)【平成24・25・26年度】 関東学生ホッケー秋季リーグ 41季連続優勝(222連勝) 主力選手として貢献【平成23・24・25・26年度】

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学院】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術 (修士論文)	シムラ ナオキ 志村 直毅	社会科学 研究科	2	日高昭夫ゼミ	修士論文『公共施設マネジメントにおける合意形成の意義』 少子高齢化と人口減少、厳しい財政状況、市町村合併など、住民サービスの拠点である公共施設を取り巻く状況は大きく変化している。加えて、施設の老朽化に伴う維持管理や更新、廃止などの公共施設固有の要因も深刻化を増しつつある。こうした状況の中で、長期的、総合的な視点に立つ公共施設のマネジメントの重要性が指摘されている。 本論文は、こうした状況を踏まえて、公共施設マネジメントを左右する最大の課題が「合意形成」の成否にあるという問題意識に立ち、自治体における合意形成の意義、制度、仕組み、手法などに焦点を絞り、その課題を総合的に考察したものである。まず、インフラを含む公共施設整備の歴史的沿革を検討して現代の特性を、政策の終結を含む「公共施設の縮退局面」と位置づけ、その局面での「合意形成」の固有の困難さを確認する。その上で、利用者や住民、地域団体などの多様なステークホルダーが計画の策定時点から多角的に参画できる仕組みの構築を含む、首長と議会の制度設計と開かれた討議へのコミットの重要性を指摘している。本研究の独自性は、従来、行政サイドにおけるマネジメント手法に偏りがちだった公共施設管理論に対して、それを踏まえつつも、特に合意形成における議会のコミットに正当なスポットを当て、その役割の重要性を論じている点にある。 審査過程において、論文の問題意識の的確さ、先行研究等のリサーチの豊富さ、課題の設定の妥当性、独自の事例研究の実施など修士論文としての基本的な諸要件は十分に満たしており、かつ、非常に優れた論文であるとの評価がなされた。また、本論文を通して、地域の公共政策への貢献を目指す公務特待生としての使命も果たしたと考える。
2	学術 (修士論文)	マツモト トシキ 望月 利樹	社会科学 研究科	2	江藤俊昭ゼミ	修士論文『住民の意思と議会の決断―山梨県富士川町誕生の市町村合併議論からの考察―』 本論文は、市町村合併による富士川町誕生をめぐる政治過程の分析である。構成団体の増穂町では、合併をめぐるさまざまな住民手法が採用されていた。住民投票や条例制定改廃の直接請求も行われた。また、首長選挙では合併も大きな争点となっていた。さまざまに張りめぐらされた住民の意思は異なっており、その中で議会はそのうちの1つである合併を選択した。本論文はそのケーススタディであるとともに、その過程で課題となっている多様な民意と議会の関係を探っている。 こうした平成の大合併の丁寧なケーススタディは、地方自治論にとって貴重なものである。時代が進展するにつれて埋もれてきている「平成の大合併」の過程を忠実に記録する意義は大きい。同時に、住民の意思と議会の今後の関係を、多様な住民参加、とりわけ抽選制による討議を重視した住民参加を採用しながら、それを踏まえて議会が議決する設計を行っている。 とはいえ、先行研究の中での本論文位置づけが不明確であるという課題もある。単なるケーススタディを超えることが必要な修士論文であるがゆえに、研究行政をその都度活用するだけではなく、先行研究を踏まえた本論文の位置を確定する作業は不可欠である。こうした課題はあるにせよ、平成の大合併の中で自治体の動向を丹念に記録した意義は大きい。

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学】

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術 (卒業論文)	トイ 楯 ヤマト 岳斗	法	4	上條 醇ゼミ	本学生の卒業論文のテーマは、『区分所有法における所有概念について―昭和58年及び平成14年の改正をめぐって―』である。本学生は不動産管理の仕事に興味を持ち、4月から横浜の不動産管理会社で働くことになっている。 卒業論文もこれに関連する「区分所有」を選んだ。その内容は、昭和37年の「区分所有等に関する法律」制定時から、昭和58年及び平成14年の改正についてのものである。マンションなどの集合住宅が高度成長期に爆発的に増え、多くの問題が噴出し、改正を余儀なくされた。これらの事情を細かく記述している。全体として、本論文作成にあたっての問題発見能力、論理的分析能力、文献読解力、文章作成力などに優れた点が感じられる。 なお、本学生は成績優秀で、今年度開催のゼミ対抗法律討論会に上條ゼミの代表者として出場し、優秀質問者として表彰された。また、今年度のエクセレント奨学生としてA種に採用されており、さらに1年次から4年次まで全ての学年でエクセレント奨学生として認定された。
2	学術 (卒業論文)	ウタダ ショウタ 歌田 将太	政治行政	4	外川伸一ゼミ	本学生の卒業論文『道州制についての批判的考察』はそのテーマとして、学会でも大きな争点となっている道州制について取り上げたもので、多くの委員会報告や論文、評論等が発表されている。それらの多くの文献を精力的に収集し、読破したその努力評価に値する。 また、山梨県総合計画審議会の一般公募委員として経験にも裏付けされており、日頃の積極的な勉強の姿勢がうかがえるとともに、卒業論文の中でも自分の体験として評論部分に使っている。 その論の進め方については、多角的かつ論理的で、説得力にあふれたものであると評価できる。その論究の姿勢も「切り込む」といったもので、その精緻な姿勢はとても優れている。もちろん、章節の分け方、段落の付け方、文献註の付け方といった形式的な点においても的確に行っている。ただ、1600字×21枚＝33,600字(400字詰め原稿用紙×84枚)といった規定の枚数を大幅に超えているわけだが、扱うテーマを考えれば、この論文の枚数は肯定できるものである。 以上、文献収集力、論の論理性、精緻な展開力等において、科内で書かれた卒業論文の中で群を抜いており、非常に優れている。
3	学術 (卒業論文)	シムラ トシキ 志村 俊貴	現代 ビジネス	4	張 華ゼミ	本学生の卒業論文『コラボで採用されるキャラクターとパッケージの特徴について―初音ミクがなぜ多くのコラボで採用されるのか―』は、大学生の独自の視点で、「日本は世界有数のアニメ大国なのに、なぜコラボに採用されているキャラクターがわずかなのか」という問題意識から、現状でキャラクターとのコラボが成功したケースを用いて、コラボに採用されるキャラクターの特徴・条件を丁寧に洗い出したうえで、コラボで多く採用されている初音ミクの成功理由について分析を行った。 受賞の理由としては、第一に、論文の体裁が整っていることが評価できる。この論文は、キャラクタービジネスの先行研究をきちんと踏まえたうえで、『販促会議』をはじめとする文献資料を丁寧に追いながら、コラボで成功するキャラクターとそのパッケージの特徴をまとめることができた。第二に、完成度の高い卒業論文を目指す本人のチャレンジ精神が評価できる。通常の卒業論文では、先行研究を踏まえて仮説を作り、既存の資料から、妥当だと思われるケースを見つけて検証を行えば、結果を説明して終わるが、この論文は、それらの作業を行うだけでなく、さらに一歩進んで、コラボで多く採用されている初音ミクの成功理由についても検証を行った。その結果が、今後アニメ大国の日本が、キャラクタービジネスを行う上で、いくつかの示唆を与えてくれた論文である。
4	学術 (卒業論文)	ミヤザワ ススム 宮澤 享	経営情報	4	黒澤壮史ゼミ	本学生の卒業論文は、『社会と出版業界における文学賞の関係性について』というテーマについて、「どうして文学賞が社会に定着したのか？」というリサーチクエスチョンを設定して独自の調査を行ったものである。 本論文では、主に象徴的消費とビジネスエコシステムの概念に依拠しながら、導出された仮説に対して、定量的調査と定性的調査の2つのアプローチで個別の仮説を検証している。定量的調査においては、アンケートに基づいて相関分析と重回帰分析を行い、定性的調査については、ビジネスエコシステムのフレームワークに基づいて事例研究や個別の文学賞と受賞作品に対するSNSの投稿内容などを分析するなど、様々な試みが見られる。 また、各調査の結果として、文学賞が有する機能的な効果が確認され、そのうえで多様なアクターが文学賞を必要とする利害関係の構図を浮き彫りにすることで、ビジネスエコシステムの在り方を示している。 本論文を評価すべき点として、論文の論理的整合性と調査手法の2つが挙げられる。まず、論文の論理的整合性として、問題意識からリサーチクエスチョンの設定、調査設計と調査結果に基づく結論までの論理の整合性が高い次元で実現されていることが評価できる。 さらに、調査手法として、独自のアンケートに基づく重回帰分析などの定量的な手法のみならず、各文学賞の受賞作品に関するTwitterの投稿内容を分析に取り組むなど、定性的な調査にも意欲的かつ独自の視点が持ち込まれている点が評価できる。
5	学術	カモチ カ ナ エ 蒲地華奈依	管理栄養	4		本学生は、管理栄養士として必要な知識・技術の向上を図るとともに、健康と栄養に関する研究テーマと課題を自ら見出し、積極的に取り組んできた。研究テーマのひとつとして取り組んでいる”腎疾患の栄養管理”では、治療食研究会が主催する腎臓病教室において、栄養指導や調理指導をサポートするボランティアスタッフとして教室運営に携わり、患者様からの質問に対して、懇切丁寧に対応する真摯な姿勢は、教室運営責任者や受講者から高い評価を得ている。これは、本学生の温かい成熟した人柄と管理栄養士としての素晴らしい適性を示すものである。 現在は、「腎臓病食はおいしくない」という患者様の声を真摯に受け止め、”QOL(生活の質)の向上は食事から”という視点で、低たんぱく米やたんぱく調整麺を用いた”おいしい治療食レシピ”の考案に取り組んでいる。おいさと治療効果を両立させたレシピ考案を目標に、試作を重ねて自ら考え出したレシピを治療食コンテストに出品するなど、食事に悩みを抱える患者様への貢献をめざし、常に高い目標を掲げ、向上心を持って取り組んでいる。 また、成績優秀であることは、エクセレント奨学生として1～3年生の3年間連続して認定を受けたことから明らかであり、また、管理栄養士国家試験全国統一模擬試験でも常にトップの成績であることから、学習面でも索引役となり、他の学生にも良い影響を及ぼしている。 また学業面のみならず、謙虚で誠実な性格は、教員や周囲の学生から厚い信頼を得ている。

NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	内 容
6	学術	ナカゴミ 中込	法	3		本学生は、平成26年11月30日に実施された法学検定試験の「アドバンスト<上級>コース」に合格した。法学検定試験は、ベーシック<初級>、スタンダード<中級>およびアドバンスト<上級>の3つのコースがあるが、アドバンストコースは、将来法曹を目指すためのステップとして、また、企業や官公署等において法律実務を担当しうだけの一定水準以上の体系的な法学の実力を証明する試験として利用され、相当高度なレベルとなっている。法科大学院の中では、同試験の結果を既修者認定のための資料として使用しているところもあるほどであり、平成26年におけるアドバンストコースの合格率は18.4%であった。 このような高度で難易度の高い試験に本学生が合格したのは、偏に彼の努力のたまものであると考えている。本学生は、入学当初から法科大学院への進学を希望して学習に励み、1年次から好成績を収めてきた。3年次からは、法科大学院研究室選抜試験に合格し、現在、法科大学院進学のための準備に取り組んでいる。 また、所属するゼミでは、他の学生の学習を指導したり、討論会や合宿などのゼミ活動にも主体的・積極的に参加するなど、他の学生の見本となるような存在である。さらには、授業態度はもちろんのこと、学習にも真剣に取り組んでおり、教員からの信頼も篤い学生である。
7	スポーツ	タカハシ 高橋	法	3	レスリング部	2014世界レスリング選手権大会 フリースタイル57級 5位 平成26年度天皇杯全日本レスリング選手権大会 フリースタイル57kg級 2位 平成26年度全日本選抜レスリング選手権大会 フリースタイル57kg級 優勝
8	スポーツ	オオバヤシマサヒト 大林 昌仁	現代 ビジネス	2	スケート部	第21回全日本スピードスケート距離別選手権大会 3000m 優勝・5000m 2位 2014スピードスケートワールドカップ(第1戦) 5000m 8位
9	スポーツ	オオイシ 大石	経営情報	4	ラグビー部	平成26年度関東大学ラグビーリーグ戦 1部6位(ベスト15) 主将として貢献 2015年セブンスラグビーワールドシリーズ日本代表
10	スポーツ	エノック オムワンバ	現代 ビジネス	3	陸上競技部	第83回日本学生陸上競技対校選手権大会 1500m・5000m 優勝 第46回全日本大学対校駅伝競走大会 5位 シード権獲得に貢献
11	スポーツ	ウチヤマ マユミ 内山真由美	経営情報	4	陸上競技部	第3回富士山マラソン大会 優勝[2' 51"51]
12	スポーツ	タカタ 高田	法	4	ホッケー部	第36回女子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝(3連覇)優秀選手賞 ホッケー部女子主将として貢献
13	スポーツ	スズキ 鈴木	法	4	柔道部	平成26年度全日本柔道選手権大会 出場 平成26年度全日本学生柔道優勝大会 ベスト8(主将・選手)
14	スポーツ	イノウエ 井上	経営情報	4	柔道部	平成26年度全日本学生女子柔道優勝大会 優勝(主将・選手) 平成26年度全日本学生女子柔道体重別団体優勝大会 優勝(主将・選手) 平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 78kg超級2位
15	スポーツ	エハラ ナイト 江原 騎士	政治行政	3	水泳部	第90回日本選手権水泳競技 400m自由形 4位・800m自由形 4位 2014年日本短水路選手権 競泳競技400m自由形 2位・200m自由形 3位
16	スポーツ	タナカ 田中	法	4	硬式野球部	2014年関甲新学生野球リーグ戦 1部初優勝(全日本大学野球選手権大会出場) 春季・秋季ベストナイン(プロ野球 読売巨人軍入団)
17	スポーツ	クジメ ナツミ 久次米夏海	経営情報	3	テニス部	平成26年度全日本大学対抗テニス王座決定試合 準優勝(主力選手として貢献) 平成26年度全日本学生室内テニス選手権大会 女子シングルス 優勝 平成26年度長崎県国民体育大会(テニス競技) 優勝(山梨県初)
18	スポーツ	モク 木工	現代 ビジネス	4	バスケットボール部	第48回関東大学女子バスケットボール選手権 優勝(2部校優勝史上初) 第64回関東大学女子バスケットボールリーグ 全勝優勝に貢献(2部最優秀選手賞)
19	スポーツ	ムラカミ 村上ほのか	現代 ビジネス	4	ソフトボール部	2014年第3回東アジアカップ 優勝(大学全日本選手・主将)
20	スポーツ	タカハシ マリ 高橋 茉里	政治行政	4	空手道部	第58回全日本学生空手道選手権大会 女子個人形 5位 第42回関東学生空手道選手権大会 女子個人形 3位
21	スポーツ	ムラタ リサ 村田 理沙	現代 ビジネス	1	ゴルフ部	第13回グアム知事杯女子ゴルフトーナメント 優勝

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・短期大学】

NO	部門	氏 名(団体名)	学科	学年	所 属	内 容
1	学術	ソウ 曾 ^{チョウワ} 焯樺	食物栄養	2	岡本裕子ゼミ	本学生は、第29回「やまびこの会」主催による1型糖尿病サマーキャンプ(8月6日から8月10日の4泊5日で実施)に栄養スタッフの責任者として、短期大学生、健康栄養学部生、東京家政学院大学生の計26名の代表として、学生をまとめ、積極的にボランティア活動に取り組み、サマーキャンプの成功に貢献した。 本学生は、入学当初から勉学意欲と探求心が強く、日頃の学習への取り組みが真摯で、学生としての本分である授業に臨む姿勢は他の学生の模範となっている。さらに、家庭の事情からアルバイトをしているが、難しい健康栄養学部への編入試験に合格している。 また、課外活動では食品加工部に所属し、部長として部員をまとめ、学園祭ではクッキーやカップケーキの販売の企画・製造に携わり活躍した。さらに、山梨県のPR誌の「ザ・やまなし」の食育月刊にちなんだ企画の回には、食生活に関する栄養教育を実践している学生として、写真入りで紹介された。
2	資格	サノ 佐野 ^{ユウ} 優	食物栄養	2	依田萬代ゼミ	本学生は、「NR・サプリメントアドバイザー」という難関資格取得を目標とし、栄養士資格を目指す日々の勉学の合間を縫いながら、継続的に学習を進め、見事認定試験に合格した。「NR・サプリメントアドバイザー」資格とは、一般消費者がサプリメントを使用するにあたり、専門的観点から個人の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる人材の育成を目的として設けられた資格である。この資格を取得するためには、日本臨床栄養協会・日本サプリメントアドバイザー認定機構が実施している e-learning による通信教育を受講した後、自己学習を経て、認定試験を突破する必要がある。なお、受講者の大半は医師や薬剤師、管理栄養士などで合格率は45%前後であり、さらに今回のように認定校学生の合格率に至っては30%前後と大変難関な資格となっている。資格取得のために必要な学習内容には、本学で学習する以上の知識も含まれていることから、卒業後も栄養士として、さらには管理栄養士としての活躍が大いに期待できる。 また、本学生は日々の勉学にも真摯に取り組み、2年次前期までのGPA(Ⓐを4.0、Aを3.0、Bを2.0、Cを1.0として評価)は3.5と食物栄養科2年生の中でも最も高値であった。さらに、2年次後期に実施された「第10回全国ヤーコンサミットin八ヶ岳」では、短期大学生らの代表として学生たちをまとめ、当日は展示ブースにおいてヤーコン料理をPRするなどイベントの成功に貢献した。本取組はレシピ集としてまとめられ、本短期大学ウェブサイトにおいて一般公開されている。
3	社会活動	伊藤美輝 ゼミナール 2年生	保育	2		平成26年度春季学生チャレンジ制度に「子どもたちの造形環境の提案／児童館における造形WSの実践」というテーマで応募し、認定していただいた。 短期大学保育科2年生の過密な保育所・施設・幼稚園における実習と並行して、笛吹市御坂児童センターで4回の造形ワークショップを実施した。毎回130名を超える小学生を対象にして行った内容から、現在の小学生が持つ多くの問題を確認すると共に、今後の課題を明確にすることができた。 今回の活動から得た問題及び課題は、実施した学生が4月からそれぞれの保育現場で活かすと共に、次期伊藤ゼミナールの2年生の活動に継承される重要な資料となった。なお、この内容については、2月18日(水)開催短期大学保育科卒業レポート発表会において発表された。
4	団体活動	遠藤清香 ゼミナール 2年生	保育	2		本ゼミナールの学生13名は、ゼミ活動を通して、障害のある子どもとその家族について研究を重ね、「障害児とその保護者のための映画イベント～歌って踊ろう～」の企画・実施を行った。調査活動を通して、自分たちにできることとは何かを明確にするため、県内の児童発達支援センター3園と協力し、保護者へのニーズ調査を行った。その結果をふまえ、学生たちは、平成26年10月に、障害を持つ子どもとその保護者を招待して行う映画イベントを企画・実施した。 イベントのテーマとして「映画」を取り上げた理由は、保護者のニーズ調査の中に、「映画館は静かにしなければならぬなど制限が多く普段あまり行けない。映画館に行きたい。」という声があったからだ。イベントでは、映画鑑賞に加え、着ぐるみの動物たちと触れ合う時間、親子で手遊びを楽しむ時間、宝探しの時間等を作り、子どもたちと保護者にあたたかい時間を提供することができた。 今回の学生たちの活動には、評価できる点が4つあると考える。まず1つ目は、障害のある子どもとその家族によい時間を過ごしてもらえたという点である。このことは障害児福祉の観点より評価できる。2つ目に、しっかりとしたニーズ調査に基づき自分たちにできることを行ったという点である。思いつくままに実行に移すのではなく、調査を踏まえているという点が優れていると考える。3つ目は、今回2年生が実施したイベントについて、後輩たち(1年生)は「先輩たちの活動の様子を知るまで、自分たちにこんな社会貢献活動ができるとは思わなかった」と感想を述べていた。この取り組みは、今後の学生による社会貢献活動を後押しするという意味でも価値のある活動だったと思う。4つ目は、最近、メディア等で発達障害や自閉症が取り上げられる機会が増えてきた。とはいえ、世間の障害に対する理解はまだまだ不十分なものである。現に学生たちも、活動を始めた当初は障害についてほとんど知らなかった。しかし、活動を通して、障害について多くのことを学んだ。今回の活動が今後も続いていくことで、障害のある子どもや家族についての社会の理解が深まっていくと考える。今回の活動は、そのきっかけとなったという点で評価できると考える。